

医学教育振興財団の活動*1

西園 昌久*2

はじめに

この財団は、その寄付行為に明らかにされているように、“日本ならびに、諸外国の医学教育(卒後の臨床研修を含む)の方向と実情とに関し、不断の調査研究を行い、その成果を医学教育機関に提供するとともに広く社会に公開するなど、日本における医学教育の充実向上について寄与し、もって医学の振興と人類の福祉に貢献することを目的とする。”事業を行うために設立されたものである。

1979年4月に発足し、現在は東京都千代田区永田町2丁目16番2号星陵会館内に事務所を開設している。(TEL) 03-3593-1324~5, (FAX) 03-3593-1368. 国公立の医科大学・医学部79大学がすべて会員として加盟している。ほかに本財団の活動の主旨に賛同し経済的支援を提供してくれる賛助会員がある。現在(1994.5)の役員などは表1のとおりでる。

わが国には、医学教育に関する全国的かつ国公私立大学を包括する団体としては、全国医学部長・病院長会議、医学教育振興財団、日本医学教育学会の3者がある。この3団体の中で「会議」は政府や各医科大学に建議あるいは提言するのにふさわしい権威的機関であるが日常的、継続的活動を行うのにふさわしい組織ではない。「財団」は各医科大学を会員として各大学の共通する主として全国規模の水準の医学教育に関する問題についての調査研究を行っている。「学会」は施設会員も

いるがこれまでの主な活動は個人会員によってなされ、個人会員の医学教育の研究活動が機関誌『医学教育』や年次大会を通じて発表されている。3団体それぞれの構成員や活動の内容を異にしている。3団体の協力、連絡はこれからますます重要と思われるが、これまでのところ、「学会内」に教育機関連絡担当というのがあって、筆者が主として「財団」との連絡を担当している。

1991~1993年にかけて医学教育振興財団が行った主な活動について報告する。

1. 第2回国際医学教育会議の開催

平成4年11月17~19日、東京の笹川記念会館において、「変革期の医学教育」をテーマとして第2回国際医学教育会議が開催された。その主旨は1986年の第1回会議での成果が現実にわが国の医学教育の変化として根づいているかを跡づけするものであった。実行委員、参加者(国内からは各大学の学長・学部長、病院長、教務委員長など、それぞれの大学の医学教育に責任をもつ人々、外国からは招待された人々ならびにWHO職員、その他)200名余りは表2-1, -2に示す。なお、会議の内容は表2-3に示す「会議日程」にみられるように、卒前、卒後の医学教育全般、ことに卒前教育では大学設置基準の大綱化に伴う一般教育と専門教育などのカリキュラムの編成、臨床実習の変更、到達目標に基づくプログラム方式の臨床研修のスタートなどそれぞれの大学が抱える問題点や隘路、そして、その改善策などが外国からの参加者の講演、発言、討論ともかみあって率直かつ熱心に討議がなされ、多くの成果を上げることができたと思われる。なお、この会議の記録は「第2回国際医学教育会議—変革期の医学教育—」として347頁からなる報告書が平成5年8月に同財団

*1 Activities of the Japan Medical Education Foundation

キーワード：国際医学教育会議，国内医大視察と討論の会，医学教育研究への助成，医学教育指導者ワークショップ，地区医学教育シンポジウム

*2 Masahisa NISHIZONO 福岡大学医学部精神医学

表 1. 役員等

【理事長】

懸田 克躬（順天堂大学顧問）

【理事】

大堀 勉（岩手医科大学理事長）
 冲永 莊一（帝京大学理事長）
 濱岡 利之（大阪大学医学部長）
 懸田 克躬（順天堂大学顧問）
 川崎 明德（川崎医科大学理事長）
 紀伊國献三（東京女子医科大学客員教授）
 佐藤 榮一（鹿児島大学医学部長）
 鈴木 章夫（東京医科歯科大学医学部長）
 竹内 一夫（杏林大学学長）
 高久 史鷹（国立国際医療センター総長）
 田中 直樹（東京慈恵会医科大学理事）
 塚原 勇（関西医科大学理事長）
 西園 昌久（福岡大学教授）
 星 猛（静岡県立大学学長）
 細田 泰弘（慶応義塾大学医学部長）
 前川 正（国立学校財務センター所長）
 村田 和彦（群馬大学医学部教授）
 門奈 丈之（大阪市立大学医学部長）
 吉岡 守正（東京女子医科大学学長）
 小川 哲朗（秋田大学医学部長）

【監事】

池中 弘（元日本協栄証券㈱常勤監査役）
 吉岡 博光（東京女子医科大学理事長）

【評議員】

石川 正統（埼玉医科大学学長）
 鈴木 淳一（日本医学教育学会会長）
 大堀 勉（岩手医科大学理事長）
 小川 秋實（信州大学医学部教授）
 冲永 莊一（帝京大学理事長）
 懸田 克躬（順天堂大学顧問）
 川崎 明德（川崎医科大学理事長）
 神田実喜男（昭和大学医学部長）
 菊池 晴彦（京都大学医学部長）
 喜多村 勇（高知医科大学学長）
 木下 和夫（宮崎医科大学学長）
 黒川 高秀（東京大学医学部長）
 土居 勝彦（山形大学医学部長）
 小泉 明（産業医科大学学長）
 齋藤 和雄（北海道大学医学部長）
 齋藤 尚夫（日本私学振興財団常務理事）
 笹井陽一郎（久留米大学医学部長）

佐藤登志郎（北里大学医学部長）
 柴田 昭（新潟大学医学部教授）
 柴田 洋子（東邦大学理事長）
 嶋津 孝（愛媛大学医学部長）
 清水 哲也（旭川医科大学学長）
 庄司 佑（日本医科大学学長）
 杉岡 洋一（九州大学医学部長）
 鈴木 宏（山梨医科大学学長）
 祖父江逸郎（愛知医科大学学長）
 高木良三郎（大分医科大学学長）
 高久 晃（富山医科薬科大学医学部長）
 竹内 一夫（杏林大学学長）
 田中 直樹（東京慈恵会医科大学理事）
 玉置 憲一（東海大学医学部長）
 塚原 勇（関西医科大学理事長）
 島塚 莞爾（福井医科大学学長）
 中澤 淳（山口大学医学部長）
 永井 純義（東京医科大学理事長）
 野田起一郎（近畿大学学長）
 長谷川嗣夫（自治医科大学附属病院長）
 原 耕平（長崎大学医学部長）
 高折 修二（島根医科大学学長）
 藤田 哲也（京都府立医科大学教授）
 細田 泰弘（慶応義塾大学医学部長）
 前田 徳尚（聖マリアンナ医科大学理事長）
 矢谷 隆一（三重大学医学部長）
 三宅 史郎（日本大学客員教授）
 宮崎 重（大阪医科大学理事長）
 宮野 成二（福岡大学学長）
 村上 暎二（金沢医科大学理事長）
 森 芳茂（兵庫医科大学教授）
 門奈 丈之（大阪市立大学医学部長）
 吉良 枝郎（順天堂大学医学部長）
 山鳥 崇（神戸大学医学部長）
 吉岡 守正（東京女子医科大学学長）
 原田 尚（獨協医科大学学長）
 若狭 治毅（福島県立医科大学学長）
 渡辺 裕（藤田保健衛生大学学長）

【参 与】

渡辺 誠（聖マリアンナ医科大学常務理事）

【事務局職員】

事務局 長 山本 寛
 事務局 職員 門脇 淳三
 湯田 紘巳
 望月 明美
 横田 弘子

から発行されている。

2. 国内医科大学視察と討論の会

本財団は年に1回、大学を選んで全国医科大学・医学部の教育の責任者に参加してもらい対話集会を行っている。当番大学の自己点検・評価に対するピア・レビューといえよう。この期間に担当していただいた大学は下記の通りである。

91年：8月26日・27日に群馬大学

92年：9月4日・5日に東京女子医科大学

93年：9月9日・10日に京都府立医大

この催しは、実施大学の責任で、その大学の開学の精神、沿革の概要、入試、医学進学課程、あるいは一般教育、専門教育、大学院教育、附属病院の現状、卒後研修についての十分な資料に基づいて懇切な説明を聞き、その上で質疑を行い、さらに学内施設ならびに学生との交流が行われた上で総合討論が実施される。これまで13回を重ねるが、国内を東西、国、公、私立の順番で交代で視察大学の当番を担当していただいている。例年、70大学前後の大学から総数90名ほどの参加者を得ているが、率直な本音の意見をだしあって、医学教育の改善をめぐる相互の理解と批判を行う絶好の機会となっている。これまで担当していた視察大学がそれぞれ何がしかの個性のある医学教育をなされているところであっただけに参加者には刺激的で好評であったようである。また、設置基準の大綱化、臨床実習の重視、プログラム方式の臨床研修など国の医学教育に関する制度上の変更の真意を理解しあうよい機会にもなっている。

3. MCAT skills 研究会

財団のMCAT研究会は、文部省科学研究班(班長：西園昌久)と協同して作成した問題を研究に参加している大学の協力を得てそれぞれの大学の在學生に試行するとともに、これまで行ってきた者に対するその後の医学教育の成果に対する追跡調査を行い、それら研究は「MCAT Skills Analysis 法の問題作成と追跡調査に関する研究」(1993)としてまとめられた。また、本入試法が普及することを期待して問題を作成する際の手引書として、「医学部入学試験問題解決能力テスト」(MCAT Skills Analysis 法)問題作成マニュアル

表 2-1. 第2回国際医学教育会議
実行委員会委員名簿

高久 史麿	実行委員会院長 (国立病院医療センター院長)
遠藤純一郎	文部省高等教育局医学教育課長
尾島 昭次	順天堂大学客員教授
開原 成允	東京大学教授
懸田 克躬	医学教育振興財団理事長
粥川 正敏	厚生省健康政策局医事課長
川崎 明徳	川崎医科大学理事長
紀伊國猷三	筑波大学教授
神津 忠彦	東京女子医科大学教授
斉藤 寿一	自治医科大学教授
西園 昌久	福岡大学教授
橋本 信也	東京慈恵会医科大学教授
前川 正	国立学校財務センター所長
松枝 啓	国立病院医療センター第7医長
水越 治	京都府立医科大学名誉教授
矢崎 義雄	東京大学教授

が作成された。この財団のMCAT研究会は平成4年度で終結したが、大学入試センター内の研究開発の事業として共同研究に引きつがれている。

4. 医学教育の研究に対する助成

この研究助成は、「同要項」によると、基礎医学教育及び臨床医学教育(卒業教育を含む)についての調査研究を助成し、わが国の医学教育の充実発展に寄与する目的からなされている。毎年3月末日までに公募し、グループ研究と一般研究とがあるが、申込み課題について「医学教育研究助成審査委員会」で厳正な審査が行われ、その答申に基づいて助成が行われている。

平成3年(1991)は応募のあった27件(グループ研究5件、一般研究22件)について審査し、表3に掲げる8件(グループ研究1件、一般研究7件)について計415万円の助成が行われた。平成4年(1992)は応募のあった22件(グループ研究1件、一般研究17件)について審査し、表4に掲げる7件(グループ研究5件、一般研究6年)について計380万円の助成が行われた。平成5年度は応募のあった32件(グループ8件、一般研究24件)について審査し、表5に掲げる7件について計370万円の助成が行われた。また、毎年、日本医学教育学会大会基調テーマに対して50万円とくに助成が行われた。

表 2-2. 参加者名簿

田邊 達三	北海道大学医学部長	堀 泰雄	岡山大学教務委員長
菅野 盛夫	北海道大学教務主任	松尾 信彦	岡山大学医学部附属病院長
宮崎 保	北海道大学医学部附属病院長	原田 康夫	広島大学医学部長
東 匡伸	旭川医科大学副学長	村上 恵	山口大学医学部長
福島 裕	弘前大学学務主任	加藤 紘	山口大学学生部委員
毛利 平	東北大学教務委員長	入野 昭三	香川医科大学長
森 昌造	東北大学医学部附属病院長	宇多 弘次	香川医科大学副学長
三浦 亮	秋田大学医学教育審議会委員長	細川 清	香川医科大学附属病院長
加藤 宏司	山形大学教務委員長	喜多村 勇	高知医科大学長
宮沢 光瑞	山形大学医学部附属病院長	瀬戸 勝男	高知医科大学副学長
遠藤 啓吾	群馬大学教務委員	池田 久男	高知医科大学附属病院長
田村 昇	筑波大学医学専門学群長	森 良一	九州大学医学部長
阿部 帥	筑波大学医学専門副学群長	水田 祥代	九州大学学務委員長
林 豊	千葉大学教授	徳永 皓一	九州大学教授
金子 敏郎	千葉大学医学部附属病院長	松浦 啓一	佐賀医科大学長
島崎 淳	千葉大学カリキュラム委員長	上村 卓也	佐賀医科大学附属病院長
若新 政史	千葉大学卒後・生涯医学臨床研修部長	原 耕平	長崎大学医学部長
鴨下 重彦	東京大学医学部長	珠玖 洋	長崎大学教務委員長
黒川 高秀	東京大学医学部附属病院長	神原 武	熊本大学医学部長
熊田 衛	東京大学教授	高月 清	熊本大学医学部附属病院長
鈴木 章夫	東京医科歯科大学医学部長	小林 迪夫	大分医科大学副学長
柴田 昭	新潟大学医学部長	木下 和夫	宮崎医科大学長
高久 晃	富山医科薬科大学医学部長	福田 健夫	鹿児島大学医学部長
倉知 正佳	富山医科薬科大学教育検討委員会委員長	大澤 炯	琉球大学医学部長
佐々木 博	富山医科薬科大学附属病院長	谷内 昭	札幌医科大学長
高守 正治	金沢大学教務委員長	三宅 浩次	札幌医科大学副学長
中久木和也	福井医科大学教務委員	阿部 力哉	福島県立医科大学附属病院長
宮保 進	福井医科大学附属病院長	竹中 敏文	横浜市立大学医学部長
鈴木 宏	山梨医科大学長	土井 陸雄	横浜市立大学第2 委員長
加藤 精彦	山梨医科大学副学長	古村 節男	京都府立医科大学学生部長
小川 秋實	信州大学医学部長	門奈 丈之	大阪市立大学医学部長
吉松 和哉	信州大学教務委員長	高木 宏	大阪市立大学カリキュラム改定委員
永田 哲士	信州大学教授	白馬 明	大阪市立大学教授
河田 幸道	岐阜大学教務厚生委員長	石川 兵衛	奈良県立医科大学長
川島 吉良	浜松医科大学長	神谷 知彌	奈良県立医科大学学生部長
山田 瑞穂	浜松医科大学附属病院長	一条 元彦	奈良県立医科大学附属病院長
植村 研一	浜松医科大学教授	田端 敏秀	和歌山県立医科大学長
齋藤 英彦	名古屋大学医学部長	小野 繁	岩手医科大学医学部長
杉田虔一郎	名古屋大学教育委員長	立木 孝	岩手医科大学教務委員長
坂本 信夫	名古屋大学医学部附属病院長	佐藤 俊一	岩手医科大学医学部附属病院長
野村 純一	三重大学教務委員	中尾 喜久	自治医科大学学長
矢谷 隆一	三重大学教務委員会委員	田島 芳雄	獨協医科大学副学長
岡田 慶夫	滋賀医科大学附属病院長	古川 利温	獨協医科大学教務委員長
山室 隆夫	京都大学医学部附属病院長	嶋田晃一郎	獨協医科大学副学長
小野 啓郎	大阪大学医学部長	石田 正統	埼玉医科大学学長
遠山 正弥	大阪大学教務委員長	濱口 勝彦	埼玉医科大学学務委員長
松村 武男	神戸大学教授	佐藤登志郎	北里大学医学部長
望月 真人	神戸大学医学部附属病院長	山科 正平	北里大学教務委員長
高橋 和郎	鳥取大学医学部長	大宮 東生	北里大学卒後教育委員長
白木 和夫	鳥取大学医学部附属病院長	長沢 俊彦	杏林大学医学部長
小倉 道雄	鳥取大学教授	石村 巽	慶応義塾大学教務委員長
木村 郁郎	岡山大学医学部長	山下 辰久	順天堂大学医学部長

表 2-2. つづき

平井 慶徳	順天堂大学助教授	<外国人参加者>	
神田実喜男	昭和大学学部長	David B. Barnett	Head of Department, University of Leicester
奥山 和男	昭和大学医学部附属病院長	Maura Brennan	順天堂大学医学教育研究室(Fulbright 研究員)
片桐 敬	昭和大学教授		Fellow in International Medicine, Baystate Medical Center
中井 康光	昭和大学教授	John Cookson	Consultant Physician, Glenfield General Hospital
寺尾 寿夫	帝京大学医学部附属病院長	Daniel D. Federman	Prof. and Dean for Medical Education, Harvard Medical School
玉置 憲一	東海大学医学部長	Richard Henry	Assistant Dean Undergraduate Education, University of Newcastle
山林 一	東海大学副医学部長	Elizabeth K. Kachur	Assistant Prof. of Medicine, State University of New York, Health Science Center at Brooklyn
佐藤 修	東海大学医学部附属病院長	Neil Kessel	Prof., University Hospital of South Manchester
前川 喜平	東京慈恵会医科大学教授	Yong Il Kim	Vice Director, Seoul National University College of Medicine
岡村 哲夫	東京慈恵会医科大学附属病院長	Syng Wook Kim	Dean, Seoul National University College of Medicine
吉岡 守正	東京女子医科大学学長	Michel Manciaux	Prof., Ecole de Santé Publique, Faculté de Médecine
細田 磋一	東京女子医科大学附属病院長	Annabelle Ayame Okada	東京医科大学眼科 (Fulbright 研究員)
石井 哲夫	東京女子医科大学教授	Alfred Sommer	Dean, Johns Hopkins School of Hygiene and Public Health
野口 鉄也	東邦大学医学部長	John Atherton Young	Dean, Faculty of Medicine, University of Sydney
内山 利満	東邦大学教務委員長	Seung-Hum Yu	Vice Dean for Academic Affairs, College of Medicine, Yonsei University
桜井 勇	日本大学学務委員会委員長		
梅里 良正	日本大学助教授	<WHO 参加者>	
庄司 佑	日本医科大学学長	Eric H. T. Goon	Director, Human Resources for Health, H Q
仁井谷久暢	日本医科大学附属病院長	S. T. Han	Regional Director, WPRO (Western Pacific/Regional Office)
相原 薫	日本医科大学教授	Takashi Ito	Medical Officer, Special Program on Technology Transfer, WPRO
前田 徳尚	聖マリアンナ医科大学理事長	Hiroshi Nakajima	Director General
豊田 順一	聖マリアンナ医科大学学務部長	A. G. Romualdez, Jr.	Director, Services Development Planning, WPRO
竹内 勇	聖マリアンナ医科大学教務委員長		
斎藤 宣彦	聖マリアンナ医科大学助教授	<医学教育関係団体参加者>	
山崎 安朗	金沢医科大学学長	織田 敏次	国際協力医学研究振興財団常務理事
小田島肅夫	金沢医科大学副学長	中川 米造	日本医学教育学会副会長
角家 暁	金沢医科大学教務部長	鈴木 淳一	日本医学教育学会副会長
山下 公一	金沢医科大学附属病院長		
菅井 進	金沢医科大学教授		
祖父江逸郎	愛知医科大学学長		
瀧本 勲	愛知医科大学附属病院長		
荻野 泰道	藤田保健衛生大学教授		
馬嶋 慶直	藤田保健衛生大学医学部大学病院長		
松本 秀雄	大阪医科大学医学部長		
吉田 康久	大阪医科大学学生部長		
岡島 邦雄	大阪医科大学附属病院長		
塚原 勇	関西医科大学学長		
榎木 勇	関西医科大学教務部長		
徳永 力雄	関西医科大学教授		
野田起一郎	近畿大学医学部長		
永井 清保	兵庫医科大学学長		
森 芳茂	兵庫医科大学教務委員長		
望月 義夫	川崎医科大学学長		
佐々木和信	川崎医科大学教授		
西 彰五郎	久留米大学医学部長		
泉 太	産業医科大学医学部長		
松岡 雄治	福岡大学医学部長		
菊池 昌弘	福岡大学病院長		
島 伸吾	防衛医科大学校助教授		

表 2-2. つづき

<文部省参加者>

遠山 敦子 高等教育局長
 須田 秀志 高等教育局長医学教育課長補佐
 亀岡 雄 高等教育局医学教育課企画係長

<厚生省参加者>

寺松 尚 健康政策局長
 金井 雅利 健康政策局医事課長補佐
 山本 仁 健康政策局医事課医事係長

<医学教育振興財団役員等>

池中 弘 医学教育振興財団監事
 牛場 大蔵 日本医学教育学会会長
 大堀 勉 岩手医科大学理事長
 岡田 晃 金沢大学教授
 冲永 莊一 帝京大学理事長
 竹内 一夫 杏林大学学長
 田中 直樹 東京慈恵会医科大学理事
 星 猛 静岡県立大学食品栄養科学部長
 渡辺 誠 聖マリアンナ医科大学常務理事
 山本 寛 医学教育振興財団事務局長

なお、助成を受けたグループ研究と一般研究についてはこれら研究助成事業成果の発表会が例年6月に全国の医学教育者に公開で行われるとともに「報告書」が出版されている。

なお、これらグループ研究ならびに一般研究のほかに、日本医学教育学会年次大会の基調テーマに対して例年、助成が行われた。

5. 医学教育指導者ワークショップ

例年、財団の主催で、国公私立各医科大学・医学部における医学教育の改善に資するために、各大学の医学教育について責任ある立場の役職者に対して、「医学教育指導者ワークショップ」が開催された。

平成3年は、同年7月9、10日、東京私学会館で、第1日目は、「医学教育講演会」としワークショップ参加者以外にも公開され、英国から招いたGMC教育委員長David Shaw教授の“医学教育；英国における展望”（座長：北海道大、宮崎保病院長）と英国外科医協会会長の“英国における卒後外科訓練プログラム”（座長：竹内一夫杏林大学学長）の2講演があった。第2日目ワークショップ（総会司会：前川 正群馬大学学長）は主題“卒前の臨床実習”が全体会議および第1分科会（座長：喜多村勇高知医大学長）第2分科会（座長：山内裕雄順天堂大病院長）でなされた。平成4年は、同年に第2回国際医学会議が予定されていたために実施されなかった。平成5年は、同年6月30日・7月1日、東京私学会館で開催された。第1日目は「医学教育講演会」とし、恒例によりワークショップ参加者以外にも公開された。同年はとくにドイツの医学教育の現状と展望について

講演を開くことにし、ドイツ医学・薬学試験研究所（IMPP）のGunther Boelcke 副所長の“ドイツにおける医学教育の改革とIMPPの役割”（座長：前川 正国立財務センター所長）とUlm大学内科Hermann Heimpel教授の“ドイツにおける医学教育の改革—主として臨床教育について”（座長：喜多村勇高知医大学長）の2講演があった。第2日目のワークショップは主題“変革期の医学教育と大学の対応”（総会司会：開原成允東京大教授）、話題提供者尾島昭次順天堂大客員教授・第1分科会（座長：石川兵衛奈良県立医大学長、鈴木 太日大駿河台病院長）でなされた。

6. 地区医学教育シンポジウム

平成3年は、同年7月12日高知医大との共催により高知県南国市において「医学教育におけるカリキュラムと実習について」を主題として、第2会中国・四国地区医学教育シンポジウムが開催された。財団主催の指導者ワークショップに特別講師として招聘されていたD. Shaw 博士、M. Gough 博士の講演もあった。また、シンポジウム“医学教育におけるカリキュラムおよび実習等について”は、“基礎医学の立場から”（座長：小倉道雄鳥取大医学部長）“臨床医学の立場から”（座長：愛媛大三木吉治医学部長）の2セッションには地区内各大学からの代表によって話題提供された。平成4年は第2回国際医学教育会議準備の都合で開催されなかった。平成5年は同年11月11日・12日、金沢大学医学部との共催により金沢市において「転換期を迎えた卒後臨床研修の問題点」および「医学一貫教育の新しい方向」をテーマにより第2回中部地区医学教育シンポジウムが開催

表 2-3. 会議日程

11月17日 (火)	〔第1, 2 合同会議室〕			
12:00~13:00	受 付			
13:00~13:40	開会式	司会 福岡大学	西園 昌久	
	1) 主催者挨拶	医学教育振興財団理事長	懸田 克躬	
		実行委員会委員長	高久 史麿	
	2) 祝 辞	文部省高等教育局長	遠山 敦子	
		厚生省健康政策局長	寺松 尚	
13:40~14:40	基調講演 I	座長 福岡大学	西園 昌久	
	「日本の医学教育はどう変わりつつあるのか」			
		順天堂大学	尾島 昭次	
14:40~15:40	基調講演 II	座長 東海大学	玉置 憲一	
	「Changing Environment of Medical Education and Responses of Medical Education」			
		ハーバード大学	Daniel D. Federman	
15:40~16:00	コーヒーブレイク			
16:00~16:40	基調講演 III	座長 群馬大学	前川 正	
	「日本の医学教育の新しい展開」			
		国立病院医療センター	高久 史麿	
16:40~17:30	討 議	座長 群馬大学	前川 正	
18:00~	レセプション	司会 筑波大学	紀伊國献三	
		〔5階 レストラン菊〕		
11月18日 (水)				
9:00~12:30	International Forum ; (WHO と共催, 討議を含む)			
	〔第1, 2 合同会議室〕			
	座長 東京女子医科大学	神津 忠彦		
		WPRO/WHO	S. T. Han	
	—医学教育の変化の国際的展望—			
	国立ソウル大学	Yong Il Kim		
	シドニー大学	John Atherton Young		
	サウスマンチェスター大学	Neil Kessel		
	ジョンスホプキンス大学	Alfred Sommer		
	サンテパブリック大学	Michel Manciaux		
12:30~13:00	特別講演	〔第1, 2 合同会議室〕		
	座長 京都府立医科大学	水越 治		
	「健康と医学教育への新しいパラダイム」			
		世界保健機関	中嶋 宏	
13:00~14:00	昼 食	〔5階 レストラン菊〕		
14:00~18:30	分科会 (コーヒーブレイクを含む)			
	第1分科会 —前臨床教育の新しい展開—			
	〔第1会議室〕	座長 東京女子医科大学	吉岡 守正	
		東京大学	熊田 衛	

表 2-3. つづき

第2分科会 一卒前臨床実習の充実を目指して一			
〔第4, 5合同会議室〕		座長	関西医科大学 塚原 勇 自治医科大学 斉藤 寿一
第3分科会 一卒直後の臨床教育(臨床研修を中心に)の目指すもの一			
〔第2会議室〕		座長	東京大学 開原 成允 国立病院医療センター 松枝 啓
19:00~21:00	International Evening Forum〔都イン東京 2階「桐の間」〕 (With Sandwiches and Drinks)		
		座長	浜松医科大学 植村 研一 HRH/HQ, WHO Eric Goon
11月19日(木)	〔第1, 2合同会議室〕		
9:00~12:00	分科会報告 全体討議	座長	実行委員会委員長 高久 史麿
12:00~12:15	閉会式 挨拶		医学教育振興財団理事長 懸田 克躬

表 3. 平成3年度医学教育研究助成決定者

グループ研究

氏名	大学名・役職名	専攻(学)科名	研 究 課 題	助成額
津田 司	川崎医科大学 助教授	家庭医療学 行動科学	医学生の進路志望の決定過程に関する研究ー特に プライマリーケア医養成の立場からー	95万円

一般研究

氏名	大学名・役職名	専攻(学)科名	研 究 課 題	助成額
細見 弘	香川医科大学 教授	生理学	入学試験の因子分析により得た入学者の特質を考 慮した医学教育の改善計画に関する研究	50万円
池田 憲明	北里大学 助教授	医用情報学	医学部情報処理教育における コンピュータ通信の活用	40万円
大江 和彦	東京大学 講師	医療情報学	ニューイングランド医学雑誌での検討症例に基づ いた呼吸器疾患鑑別診断演習法の研究	50万円
佐々木正五	東海大学 教授	微生物学	卒前の臨床教育について	50万円
猪俣賢一郎	東邦大学 教授	臨床人体組織学	基礎と臨床教育のために 必要十分な解剖学用語の選択	40万円
松山 敏剛	九州大学 助教授	医学教育学	九州大学医学部における 正課授業としての基礎配置の検討	40万円
神津 忠彦	東京女子医科大学 教授	消化器病学 異学教育学	我国におけるテュートリアル方式医学教育の実施 に伴う問題点とその対策に関する研究	50万円

第23回日本医学教育学会大会テーマ

氏名	大学名・役職名	専攻(学)科名	研 究 課 題	助成額
塚原 勇	関西医科大学 理事長	眼科学	転換期に立つ医学教育 ー新しい発想とその実践	50万円

表 4. 平成 4 年度医学教育研究助成決定者

グループ研究

氏名	大学名・役職名	研 究 課 題	助成額
林 英生	筑波大学教授	新しい医学微生物学教育カリキュラムの作成	100万円

一般研究

氏名	大学名・役職名	専攻(学)科名	研 究 課 題	助成額
喜多村 勇	筑波大学教授	小児科学	診断治療シミュレーションシステムの開発	50万円
有本 葉子	東京女子医大教授	神経生理学	Tutorial 導入による卒前臨床教育について	50万円
宇多 弘次	香川医科大学副学長	病理学	入学試験の因子分析により得た入学者の特質を考慮した医学教育の改善計画に関する研究	40万円
山本 博道	九州大学助手	医学教育学	ロールプレイを活用した面接問診法の卒前教育に関する研究	40万円
高田 良久	富山医科薬科大助手	内科学	卒前・卒後の臨床教育と医学生の行動パターンに関する研究	50万円
玉置 憲一	東海大学学部長	病理学	卒前の臨床教育について	50万円

第24回日本医学教育学会大会テーマ

氏名	大学名・役職名	研 究 課 題	助成額
菊池 吾郎	日本医科大学学長	医学・医療の質改善のための医学教育のあり方についての総合的研究	50万円

された。シンポジウム“転換期を迎えた卒後臨床研修の問題点”(座長：佐々木一之金沢医大副病院長、広根孝衛金沢大病院長)は地区内各大学4名の代表の話題提供、地区外からの追加発言のもとになされた。なお、前川正氏による特別講演“大学病院における卒後臨床研修”がなされた。シンポジウム“医学一貫教育の新しい方向”(座長：岡宏福井医大副学長・高守正治金沢大教授)は地区内ばかりではなく、東北大、長崎大、浜松医大など新しいカリキュラム導入をはかっている大学からの話題提供がなされた。また、招聘特別講演としてオランダ Erasmus 大学 Fred T. Bosman 教授の“オランダにおける医学教育”があった。

7. 医学教育資料の刊行

平成3年は、「米国の医学教育と教育病院(平成元年度米国医学教育事情調査報告書)」「第11回国内医科大学視察と討論の会(当番大学群馬大)報告書」「平成2年度医学教育研究助成成果報告書」、平成4年は「第12回国内医科大学視察と討論の会

(東京女子医大)報告書」、平成5年は、「第2回国際医学教育会議報告書」「第13回国内医科大学視察と討論の会(京都府立医大)報告書」「平成4年度医学教育研究助成成果報告書」などが刊行された。

8. 厚生省から委託された「臨床研修モデルプログラム」作成と「臨床研修プログラム自己評価方法」などの事業

平成4年、厚生省健康政策局長から財団に委託された“臨床研修モデルプログラム作成等検討事業”については財団に表6に掲げる委員からなる検討委員会(委員長：前川 正)を設置し精力的に作業を行い報告書を作成した。平成5年は、前年度に引きつづき“臨床研修プログラム自己評価方法等の検討事業”が委託された。財団で表7に掲げる委員長からなる検討委員会(委員長：高久史麿)を設置し検討を行い報告書として厚生省に提出された。

表 5. 平成 5 年度医学教育研究助成決定者

グループ研究

氏名	大学名・役職名	専攻(学)科名	研 究 課 題	助成額
山内 俊雄	埼玉医科大学 教授	精神医学	卒前教育としての精神医学教育の目標と範囲について	100万円

一般研究

氏名	大学名・役職名	専攻(学)科名	研 究 課 題	助成額
藤崎 和彦	奈良県立医大 助手	医学教育学 行動科学	模擬患者を利用したコミュニケーション・スキル教育法の開発	40万円
高村克日巳	千葉大学病院 助手	内科学	コンピュータによる患者管理のシミュレーション学者	50万円
喜多村 勇	高知医科大学 学長	小児科学	診断診療シミュレーション教育システムの開発	50万円
橋本 信也	東京慈恵会医大教授	内科学	医学生の卒後進路の現状に関する調査研究	40万円
小宮 義輝	群馬大学 教授	分子病態学 神経生化学	推薦入学者に関する追跡調査—入学試験の多様化にむけて—	40万円
大滝 純司	筑波大学 講師	医学教育学	卒後臨床研修における自己評価システムの開発に関する研究	50万円

第25回日本医学教育学会大会テーマ

氏名	大学名・役職名	専攻(学)科名	研 究 課 題	助成額
神田 四郎	滋賀医科大学 教授	内科学 消化器病学	変革期に直面する医学教育	50万円

表 6. 臨床研修モデルプログラム作成等検討委員会委員名簿

(平成 4 年 5 月 1 日～平成 5 年 3 月 31 日)

* ☆	前川 正	国立学校財務センター所長(内科)
☆	出月 康夫	東京大学教授(外科)
☆	開原 成允	東京大学教授(情報)
☆	懸田 克躬	医学教育振興財団理事長(精神科)
	小池麒一郎	日本医師会常任理事(小児科)
☆	猿田 亨男	慶応義塾大学教授(内科)
	設楽 哲也	北里大学教授(耳鼻科)
	高久 史麿	国立病院医療センター院長(内科)
	高見沢裕吉	千葉大学教授(産婦人科)
	塚原 勇	関西医科大学理事長(眼科)
	寺本 成美	国立長崎中央病院病院長 (脳神経外科)
	西園 昌久	福岡大学教授(精神科)
	松浦 啓一	佐賀医科大学長(放射線科)
	三上 隆三	聖路加国際病院副院長(整形外科)
	山室 隆夫	京都大学病院長(整形外科)

(五十音順)

※ 委員長：* 小委員会委員：☆

表 7. 臨床研修プログラム自己評価方法等検討委員会委員名簿

* ☆	高久 史麿	国立国際医療センター(内科)
☆	相川 直樹	慶応義塾大学(救急)
	石井 哲夫	東京女子医科大学(耳鼻咽喉科)
☆	開原 成允	東京大学(医療情報)
☆	懸田 克躬	順天堂大学(精神科)
	片山 仁	順天堂大学(放射線科)
☆	猿田 亨男	慶応義塾大学(内科)
	多田 哲也	NTT 東北病院(小児科)
	戸倉 康之	浦和市立病院(外科)
	西村 健	大阪大学(精神科)
☆	橋本 信也	東京慈恵会医科大学(内科)
	畑尾 正彦	武蔵野赤十字病院(外科)
☆	前川 正	国立学校財務センター(内科)
	武藤徹一郎	東京大学(外科)

(五十音順)

※ 委員長：* 小委員会委員：☆

9. 新設医科大学（医学部）に関する GMC の承認手続きへの協力

まだ英国の General Medical Council (GMC) の承認を得ていない新設医科大学、医学部の卒業者が英国において臨床研究にたずさわるには、GMC による医科大学、医学部としての承認が必要である。その承認を得るには、大学からの必要な書類上の手続きのほかに、GMC の 2 名からなるレフェリーによる視察でパスせねばならない。財団は申請書およびレフェリーの視察受け入れなどについて申請医科大学・医学部に協力を行った。平成 5 年度末の時点で申請医科大学・医学部はすべて承認され、残すは未申請 2 大学のみとなった。それらも近く、申請手続きがとられ承認を受けるものと期待される。

10. 英国医科大学（医学部）での臨床実習

臨床教育の向上をはかるため、英国 GMC の好意により、英国の医科大学・医学部において学生の 1 カ月間臨床実習に従事する制度がなされている。全国医科大学・医学部から応募のあった学生について財団の選考委員会で選考の上、レスター大学とニューキャッスルアポンタイン大学にそれぞれ 4 名（平成 5 年）派遣した。応募者が多いため上記 2 大学以外にも依頼する可能性が検討され

ている。

11. 医学教育者のためのワークショップの協力

例年 12 月に富士教育研修所で開催される、文部省・厚生省共催、日本医学教育学会協力、WHO 後援のワークショップに財団も協力した。

12. 川崎学園・グリーンカレッジフェローシップ

英国オックスフォード大学グリーンカレッジにおいて 1 年間の臨床訓練、研究を行う日本の医師に対して滞在費および旅費を支給することを趣旨として設けられた。同フェローシップは平成 3 年に札幌医大、宮村和夫氏（内科学）を派遣することにした。以後については財政的理由から再検討することになった。

文 献

- 1) 医学教育振興財団：J. M. E. F. : Japan Medical Education Foundation, 第 10 号, 1991
- 2) 医学教育振興財団：J. M. E. F. : Japan Medical Education Foundation, 第 11 号, 1992
- 3) 医学教育振興財団：J. M. E. F. : Japan Medical Education Foundation, 第 2 号, 1994
- 4) 医学教育振興財団：第 2 回国際医学教育会議—変革期の医学教育, 1993

*

*

*